

## 2018 年度学校関係者評価委員会評価報告書

### 教育理念

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、教職員・学生・保護者・関係者に伝わることを課題として捉えていることを評価する。

今後は、検討中の「アルウィン学園保育者養成システム」などでの図式化により明示されつつある「キリスト教保育者像」の内実を、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの各ポリシーとの関連で明確化し、オープンキャンパス等で伝えたい。

### 学校運営

教務分掌・事務分掌の、整理や業務のシステム化によるサポート体制の強化も求められる。教育活動についての情報公開はなされているが、今後はその内容となるシラバス・授業評価などの公開が求められる。

### 教育活動

小規模のため、学生と教員の関係が濃密である。そのため感覚的になりやすいので、適宜、数値化するなどの工夫が求められる。いわゆる授業評価の導入が考えられ、あわせてアクティブラーニング方式や公開授業などの試行も課題となる。なお、評価などではその活用方法に工夫も必要となる。

### 学修支援

資格取得率、就職率の向上に努めていることが評価される。また退学率の低減も図られている。

今後は卒業生の社会的活動についての動向調査などのアフター・ケア、また卒業生のホーム・カミングなどによる在校生との交流も課題となる。

### 学生支援

進路・就職・学生相談・課外活動・奨学金制度などによる支援体制は概ね整備され機能していると評価される。

課題としては、保護者との連携や同窓会の活性化があり、それぞれにおいて学園側の主導性が望まれる。共通の広場としての学園祭の更なる活用が考えられる。

## 教育環境

パソコン類や視聴覚教材などにおけるなお一層の整備が望まれる。  
また、授業活動以外の余暇活動などでのリラックスできるスペース創出の工夫が望まれる。

## 学生の募集と受け入れ

資格取得・就職状況等の教育成果に関する情報は、概ね正確に伝えられていると評価される。  
幼稚園・保育園の保育現場を有する教育環境をアピールした PR 活動を更に拡充したい。募集については、都内から地方の高校にもアプローチすることが望まれる。

## 法令等の遵守

専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護への対策については、良好な実施が為されていると認められる。  
学校評価の実施と問題点の改善については、自己評価の段階に止まっているため、学校運営委員による学校評価と情報公開を 2019 年度に実施することが求められる。

## 社会貢献・地域貢献

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、地域の児童館でのボランティア・保育士人材確保事業などでの実績が評価できる。今後は、公開講座や教育訓練としてのキャリアパス事業・リカレント教育などでの取組みが期待される。

## 総合的評価

検討課題の 9 項目について、真摯な自己評価が為されたことは高く評価される。  
今後は、学校運営委員会など学識経験者との協同作業により各検討委員会における内容の更なる拡充と深化が望まれる。